

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における経済情勢は、企業業績の回復が続き、所得・雇用環境にも改善傾向がみられるなど景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、中国経済の影響等により景気の先行きは不透明な状況が続いております。調剤薬局業界におきましては、ジェネリック医薬品の使用拡大を促進する施策がとられ、介護業界におきましては、平成27年4月から介護報酬の引下げが行われました。

このような状況の下で、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高14,162百万円(前年同期比9.2%増)、営業利益657百万円(前年同期比0.7%減)、経常利益700百万円(前年同期比4.6%増)、四半期純利益は503百万円(前年同期比17.4%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、既存店舗の売上高が伸長したことに加え、新規出店及びM&Aにより加わった店舗が寄与したこと等により増収となりました。この結果、売上高は11,264百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益861百万円(前年同期比14.3%増)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、既存有料老人ホームの入居者確保に注力しました。また、前年度にグループ会社化した子会社や新規開設した有料老人ホームが寄与し、売上高は堅調に推移しました。収益面においては、新規開設にかかる初期費用の負担と介護報酬引下げが影響しました。この結果、売上高は2,138百万円(前年同期比21.0%増)、営業利益88百万円(前年同期比31.7%減)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中、積極的な営業活動により売上高は伸長しましたが、一方で、競合が激しさを増す事業環境が収益面に影響しました。この結果、売上高702百万円(前年同期比10.3%増)、営業利益35百万円(前年同期比51.2%減)となりました。(内部売上を含む売上高は972百万円となり、前年同期比で9.8%増加しました。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高58百万円(前年同期比56.7%増)、営業利益28百万円(前年同期比2.5%増)となりました。

また、投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は4,975百万円となり、前連結会計年度末と比較して410百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、581百万円(前年同期比50百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益869百万円、減価償却費300百万円があったものの、売上債権の増加204百万円、投資有価証券売却益171百万円、法人税等の支払288百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、611百万円(前年同期比271百万円の増加)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入407百万円があったものの、投資有価証券の取得による支出555百万円、有形固定資産の取得による支出436百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、440百万円(前年同期比22百万円の減少)となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金の純増加565百万円、配当金の支払71百万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。